



海外をも巻き込んだ話題の7月5日が過ぎました。

観察から始めよう!

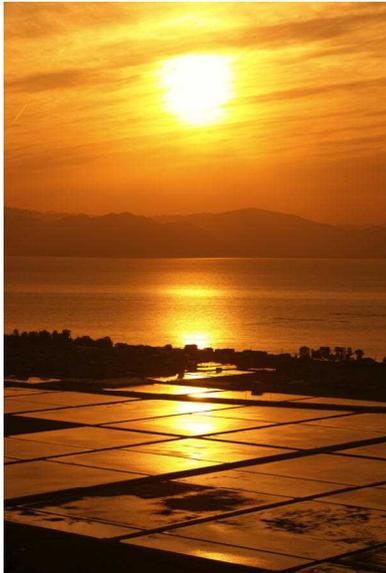
トカラ列島での群発地震が発生し、本当に震災が起きるのかと思った人も少なくはないでしょう。実際に海外からの旅行客が減少し、航空便が運休になる路線もいくつかあります。

このような状況に、気象庁が、噂に対する科学的根拠はないとメディアで発表する光景もありました。地球の年齢はおよそ45億年。地球科学ではマントルの対流の周期は1億年、火山の寿命は1万年というオーダーで見えています。人間の時間の間隔とは大きく異なる地球の営みからすると、いつ、どこで、どのような災害が起こるのかをピンポイントで予測することは不可能とされています。

しかし、今回の話題が非常時の対策について考える機会になったとするなら、プラスの効果もあったこととなります。

気象に関するいろいろな言い伝えがあります。「夕焼け空だと翌日は晴れる」「月がかさをかぶると雨」などは定番の言い伝えであり皆さんも聞いたことがあると思います。また、「〇〇山に雲がかかると雨が降る」のように、その地域特有の言い伝えもあります。

科学的な理由はわからなくても、現象を観察することで予兆を知ることができます。その現象を科学的に考えることで予言が予測に変わります。科学的に予測するためにはその根拠となる要因を見つけることが必要です。観察することは要因を見つけることにつながるのではないのでしょうか。



人は理屈で説明できないことを「神のなせる業」としてきました。文明の発達と共に科学的に説明できることが増えてきましたが、まだまだ多くのことが神の領域です。

皆さんも周囲をよく観察してみてください。科学的なことだけではなく、人間関係も観察すると、偶然ではない必然的な因果関係に気づけるかもしれません。

ものをつくる技術・技能も大切ですが、メンテナンスし安全に長く使えることも重要です。そのために必要不可欠なのが観察です。どのようなところに変化が出ているのか、どのように変化しているのかを把握し、要因を予測し対策を立てることで改善されます。安全なものづくりを実現してください。

校長 松川 明義



【行事予定】

- 10日(木)：短縮授業
 - 11日(金)：パソコン利用技術検定 初級CAD検定
 - 12日(土)：ものづくりコンテスト鳥取県大会測量部門
- 週末の大会 硬式野球部、軟式野球部、ボート部

